

第3回 「今語り継いでおきたい戦争体験 知らずに作っていた人間魚雷"回天"」

講師／遠藤宮子

子どもの時から戦争があった。日本は、昔攻められたけど（元寇）神風が吹いた。日清、日露戦争でも勝った。最後は神風が吹いて勝つ。負けるなんて信じられませんでした。

昭和19年11月8日、当時福島高等女学校3年生（現在の中学3年生）の私たちの学年は、夜汽車で出発しました。勝つために、お国の為にと修学旅行の気分でにこにこ、がやがやしていました。だけど、「ガタン！」と発車したら、急に心細くなりました。今でもあの音は忘れられません。まだ14、15歳の子どもだもの。親はこれが今生の別れになるやも、と泣いたそうです。

列車の窓は閉められていて、どこに向かっているか分かりませんでした。

・・・バラックには、一部屋12畳9人、全部で700人の学生が集められました。当初は防空壕もなく、暖房もない、水道の蛇口はなく、水がチョロチョロ。そこは、横須賀海軍工廠「敷島」隊でした。

・・・日曜日以外、毎日勤労奉仕に行きました。電車を4回乗り継ぎ、あとは歩きです。歩きながら軍歌を歌いました。また合うんです、これが。日本軍の通った跡は、虫もいない、血なまぐさい風が吹いた、なんて歌も歌いました。・・・

着いた次の日空襲があつて、配給のかたい毛布を被って、リュックをしょって、山に逃げました。ぬかるんだ夜道を前の人の白い鉢巻を目印に進みました。ズルって滑って「あっ」というと「黙ってろ」と言われました。帰ってボソボソ出ている冷たい水で足を洗います。布団の中で足を寄せ合って温め寝ました。冷え性の人は眠れず、布団の中で「おかあさん」と泣いていました。また布団は各自自宅からもってくるので、金持ちの人はふわふわした布団だけど、飯坂の大火で親類に身を寄せていた人は木綿の布団で、14、5の乙女心は貧乏人と金持ちの差に傷つきました。

蚤、下着の縫い目にびっしり付いた風、這い出るウジ虫をつぶしながら行くトイレ。防空壕は狭く、しゃがまないとならなくて、湿っていて座れない。ミミズが這い出てきます。

やりがいのない、同じことの繰り返し。働いて寝るだけの日々。勉強も出来ない。新聞も見れない。適性検査により、鋳形、油を使う何とか、図面、教育班はさぞやいいかと思いきや、科学の本をみていたとか、家の仕事をするために家に帰ったなどの理由で毎日男子が殴られ、吹っ飛ぶのをみてせつなくて、配置換えを願い出るのです。食べ物、着るものもろくにありません。履物でも苦労しました。靴連れする人もいます。

2割の生徒がうつ病になりました。でも帰福してみんなのところに、早く戻って働きたいと思うのです。

横須賀海軍工廠は、海の周りを硬い岩盤の山が囲んでいる。戦艦大和もここで作られた。着いた当初は、空襲の度に山に逃げたが、その後防空壕が作られた。硬い岩盤なので、韓国の人が突破をかけた。私たちがそれを運んだ。発破をかけるなど危険な作業は全部韓国の人がさせられていた。その為、死者も多かった。死んだ韓国の方は、埋葬されず、ただむしろが掛けられただけだった。夜になるとその周りに人が集まった。アランが聞こえてきた。中国や朝鮮半島の方は、「チャンコロ」「鮮人」とバカにされていた。

（それは、子どもでもみなそうだったのですか？）・・・そうだった。

そういうことをしてきたから、関東大震災の時仕返しされると思い、あんなことになったのだと思う。差別してきたことを自覚していたから。

横須賀海軍工廠は実際に空爆されたのは、1回だけだった。後は素通り。避難は、日に一度のときも三度の時もあつたけど。戦後使おうと思つてのことですね。

爆撃されたら、目玉が飛び出さないよう目と耳を抑え、臓物が出ないように、口を塞いで地面にうつぶせた。横須賀海軍工廠は実際には一度だけ空爆された。その時の風圧と云ったら。福島は戦場になったことがないからわからない。戦後、女子供は避難するように。ただし、慰安婦を残してと言われた。

防災の日の避難訓練で子どもが座布団を頭に身を伏せていた。自分の子どもの時のことを思い出した。

戦後 50 年に横須賀海軍工廠に行った福高生、福女生で合同同窓会をした。

「海ゆかばを歌わないでくれ、海の藻屑と消えた学友が見える。」

そういった人がいた。もう何日かしたら自分の番だった。聞くと⑥は人間魚雷回天だった。④はその前の型でしょう、通称アマガエルだった。ベニア板で作られた人間魚雷で緑色をしていた。浮かぶので簡単に爆撃された。本当に人間を人間と思わなかった。改良されて⑥になったが、命中することはほとんどなかった。日本は弾薬もなくなり、人間も弾にした。

昭和 20 年敗戦の 1 カ月前に 1 ヶ月の定期をもたされた。なぜかは未だに答えてもらっていない。お偉い方の接待に下級生だけが動員されて、自分たちは呼ばれなかった。先生に聞いてもなぜかを言わない。やっと女の先生に聞いたところ、あなたたちは「女工」だからと言われた。あなたたちはひどい学生だったねえと。

戦時中、特高があり、下手な事を言えない。誰が密告するかわからないから。いつの間にか壁に耳あり、障子に目ありと言われるようになった。ビンタも見ている。いつしか何でも言われた通りにやればいいんだ。お上の言う通りにやればいいんだ。そういう精神が身につけていました。また、情勢も知らない。

フロアから質問。親は反対しなかったか、日当はもらえたか？・・・命令だから拒否できなかった。親はあの手この手で陳情したがダメだった。

次回 10 月 7 日 14 時からチェンバ大町にて。無料。軍国少女がいつ憑き物がとれたか、憲法ができてどう変わったのか？平和運動をされてきて今の情勢はどう感じるか？戦後の平和運動。憲法のことなどお聞きします。